

令和2年度 岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科

教職実践専攻(専門職学位課程)

高度な専門性と

豊かな人間性・社会性を備えた

力量ある教員を育む大学院



国立大学法人
岩手大学

スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 田代 高章

岩手大学教職大学院は平成28年4月に発足し、平成30年3月に1期生17名、平成31年3月に2期生18名、令和2年3月に3期生18名が修了しました。修了生は、理論と実践の往還を通して修得した力量を発揮し、学校および教育行政の最前線で活躍しています。

本学教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から2年間研修として派遣され、修了後は管理職や指導主事など、本県教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。また、学卒院生は修了後、即戦力となるスーパーキー教員として活躍することが期待されています。

本学の教職大学院での学修プログラムでは、専攻共通科目を中心に現職院生と学卒院生が校種や専門を超えて同じ場で学び合える環境にあることが特色です。また、1年次生と2年次生、現職院生も学卒院生も全員、一つの院生室に、個人毎に机が配置され、日常の生活空間を共有しています。この院生室での生活は、通常の授業や実習を補完する重要な学び合いやOJTの場ともなっています。学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も、本学教職大学院の大きな特徴です。

本学教職大学院は、地域の教育委員会と学校との連携・協力の下に、現代的な諸課題にも対応すべく、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員を育成していきます。



専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 博

岩手大学教職大学院修了生も既に3期生となり、今まで実に50名以上の皆さんがそれぞれの勤務地において、子どもたちのために2年間の学修の成果を大いに発揮しています。

3期生の現職教員の皆さんは、副校長、主幹教諭、経営指導主事、指導主事としての任用や連携協力校への配置がなされ、この4月からそれぞれの任地で新たなスタートを切って活躍しています。学卒院生の皆さんも、連携協力校を始めとする小中学校や県立学校等で、2年間の専門的で実践的な深い学びを生かしながら意欲的に頑張っています。

学校現場では、新学習指導要領に示されたような新しい学びへの対応や、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応など、様々な課題に向き合うことが求められます。教職大学院では、現職教員と学卒院生が刺激し合いながら、大学と連携協力校での研究や実習によって理論と実践の融合を図り、学校現場で抱えている課題の解決に向けた実践的指導力を高められることが大きな魅力です。そして、その指導力の向上が岩手の教育の充実に結びついているものと確信しています。

県教委として今後も引き続き、管理職や中核的なリーダー教員、授業力を磨くスーパー教員をめざすなど多様な人材を派遣して参ります。また、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、一層の連携・協働を図って参ります。



オンラインでの授業



リフレクションの授業



宮古教育事務所での学校マネジメント力開発実習

教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年の学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

○教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

○学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム



現職院生 川原恵理子

学校マネジメントに関わる学校経営や学校評価などの授業の他に、教育活動全体へ関わる実習を通して、総合的な力を修得することができます。専門実習では、自己の専門領域だけでなく、他校種、各プログラムの実践から自分の視点を広げることができます。また、経験豊かな実務家教員の先生方のサポートで、充実した研究や実践をすることができます。この大学院での発展的な学びは、これから学校現場で活かしていけると確信しています。

子ども支援力開発プログラム



現職院生 佐藤和生

教職大学院では、教育心理学等の自分のプログラムに関する講義だけでなく学校経営やICT教育、特別支援教育など幅広い分野について学ぶことができます。また、教育行政や支援員等についての体験的な学び、異校種の現職院生や学卒院生との協働的な学びなどの貴重な学修の機会にも恵まれています。これらは、自分の実践を振り返ったり教育的視野を広げたりする上で大いに役立つと実感しています。岩手の教育に貢献できるよう今後も学びを深めていきたいと思っています。

授業力開発プログラム



現職院生 有谷 保

子どもたちが明るい未来を切り拓くために、確かな学力が身につく授業とはどうあるべきか、様々な実習や講義を通して学んでいます。異校種の現職院生や学卒院生との対話を通して知見を広げられるところ、これまでの自分の実践を振り返りながら学んだ知識や理論を結び付けられるところが教職大学院の魅力だと思います。そして1年間の深い学びが自分を大きく成長させてくれていると実感しています。



学卒院生 草薙 宥映

現場で生かせるような力が欲しい。学部では実際にどのような力が必要なのか曖昧なところが多くありました。教職大学院では、教育について学修をしながら、その活動全体を学び方と捉えて汎用性のあるものに変換することができます。周りの人と学びを共有していくことで自分だけでは見つけられなかったことも見いだすことに繋がっています。実習や普段の生活だけでなく、働いてからも学び方を知っていることが強みになると感じています。



学卒院生 熊谷 聡志

教職大学院では校種・教科・世代の異なる多様な院生の皆さんと「主体的・対話的で深い学び」を実践することができます。それぞれの院生が日々の講義やゼミ、実習で気づいたことや疑問に感じたことを持ち寄りディスカッションすることで、ものの「見方・考え方」を鍛えることができる環境に感謝するばかりです。今後子どもたちの未来のために、教員としての「資質・能力」を仲間と共に高めていきます。



学卒院生 熊谷 真倫

教職大学院は教育現場との繋がりが強い上に、研究の自由度も高く、自分の追求したいことに取り組めるのも1つの魅力だと思います。私は、「小規模校における遠隔合同授業」を研究テーマとしていますが、現場との繋がりを生かし、僻地の小学校に実際に行ったり、他県の小学校と遠隔授業をしたりする事が出来ました。こういった実践は現場に出てから簡単に出来る事ではないので大学院という場で貴重な経験をする事が出来ています。

特別支援教育力開発プログラム



現職院生 佐々木 尚子

教職大学院での学びは、教育に対する幅を広げてくれます。特に、現場では目の前のことに一杯で、実践を振り返ることもほとんどないまま過ごしてきました。大学院では、自分の実践や経験を振り返り、理論と結び付ける等の貴重な機会を得ることができます。また、他校種の経験豊富な現職院生や感性豊かな学卒院生、さらに専門的知識の豊富な大学の先生方からの学びによって、視点の違いや新たな気づきも多く、貴重な時間を過ごすことができます。



学卒院生 原田 孝祐

教職大学院での授業では、教職についての質の高い理論知を学ぶことができ、毎週の実践実習では、現場の先生方の授業や児童生徒との関わり、自身の授業実践から、実践知を得ることができます。そして、「省察」を通して、この理論知と実践知が往還し、自身の学びを洗練させることができます。大学院は、この「省察(リフレクション)」というライフスタイルを手に入れる場所であり、教職を志向する者のスタンダードになっていく過程であると思います。

カリキュラムについて

4つのプログラム制 学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

1 学校マネジメント力開発プログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。

2 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

3 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。学校心理士の受験資格を得ることが可能。

4 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわたの復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学部段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資する実践的力量的を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

履修スケジュール

		1 年 次											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 卒 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位)	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。						特別支援教育力開発実習I (学校マネジメント力・授業力開発実習) (集中、4W) ※附属特支					
	授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習 (1日/W、計160H) ※附属校	授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習 (1日/W、計160H) ※附属校						教育実践研究 中間発表会					
教育実践リフレクションI	教育実践リフレクションI						教育実践リフレクションII						
授業力開発基礎演習 (2H/W、計10H)	授業力開発基礎演習 (2H/W、計10H)		子ども支援力開発基礎演習 (2H/W、計10H)		子ども支援力開発基礎演習 (2H/W、計10H)		学校マネジメント力開発基礎演習 (集中、計10H)		教育実践リフレクションII				
現 職 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位)	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	授業力開発実習(1日/W、計80H) ※公立連携校	授業力開発実習(1日/W、計80H) ※公立連携校						学校マネジメント力開発実習 (集中、計40H) ※県教委及び総合教育センター等					
	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。						子ども支援力開発実習 (1日/W、計60H) ※附属校で実施					
特別支援教育力開発実習II (現職力開発実習) (集中、2W) ※附属特支	特別支援教育力開発実習II (現職力開発実習) (集中、2W) ※附属特支						教育実践研究 中間発表会						
教育実践リフレクションI	教育実践リフレクションI						教育実践リフレクションII						



時間割例 (授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4	5
月		学力の向上と学習意欲	学校マネジメントの理論と実践	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際	
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	小学校英語の実践と課題		
水	岩手の教育課題			心理教育的援助サービスの理論と実践	教科の指導と評価の実践研究
木					
金	教育実践リフレクションI ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習			木曜日は配属校で実践実習をします。	

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4	5
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究	
火	学習指導要領とカリキュラム開発	社会科教育の実践と課題			
水	学校経営の実践と課題		いわての復興教育の実践と課題		
木	総合実習 (①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)				
金	教育実践リフレクションII				

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4	5
月					
火		算数・数学科教育の実践と課題			
水			道徳教育の実践と課題		
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)				
金	教育実践リフレクションIII				

理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4	5
月		生活科・総合学習の実践と課題			
火					
水					
木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)				
金	教育実践リフレクションIV				

研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
		プログラム別必修	プログラム別選択	科目選択			
	20	4	4	6	10	4	48

授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し学び合うことも多くあります。

「理論と実践の融合」を目指す教職大学院の授業では、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員(小・中・高・特支校長等経験者)が担当し、多くの授業をチームティーチングで実施します。そこでは演習を重視します。

院生の学修は、学校経営学、教育方法学、教科教育学、学校臨床心理学、特別支援教育学をそれぞれ専門とする研究者教員7名と実務家教員7名、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員でサポートします。

「教育実践研究報告書」の執筆の過程では、院生一人一人が学校現場に貢献するテーマを選定し、その内容に応じて研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

2年次

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム別選択科目(10科目開講)					プログラム別選択科目(5科目開講)					
	授業力・子ども支援力開発実習(集中、計80H) ※公立連携校		教育実践研究中間発表会	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H) ※公立連携校		授業力・子ども支援力開発実習(集中、計80H) ※公立連携校			教育実践研究発表会	
				特別支援教育力開発実習I(子ども支援力開発実習)(集中、6W) ※附属特支(一部公立連携校)						
教育実践リフレクションIII					教育実践リフレクションIV					
プログラム別選択科目(10科目開講)					プログラム別選択科目(5科目開講)					
校マネジメント力実習(計40H) 教委	授業力開発実習(集中、計80H) ※公立連携校		教育実践研究中間発表会	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H) ※教育事務所等		子ども支援力開発実習(集中、計60H) ※附属校			教育実践研究発表会	
				特別支援教育力開発実習II(子ども支援力開発実習)(集中、5W) ※附属特支(一部公立校)						
教育実践リフレクションIII					教育実践リフレクションIV					

➤ 専門実習について



Q 1 **A** **マネジメント力開発実習とは、どんなことをするのか？**

学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。

下橋中学校

Q 3 **A** **子ども支援力開発実習とは、どんなことをするのか？**

教科指導以外の教育活動(学級経営、進路指導、教育相談等)を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

厨川小学校

Q 2 **A** **授業力開発実習とは、どんなことをするのか？**

授業づくりを実習します。単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体かつ有効な授業方法を開発、検証します。

仁王小学校

Q 4 **A** **特別支援教育力開発実習とは、どんなことをするのか？**

特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

附属特別支援学校

➤ 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内組織を生かすOJT推進の手立て—育成指標を踏まえた研修ツール開発— ● 高等学校における地域連携の現状と課題—高等学校におけるコミュニティ・スクールの導入の可能性を探る—
子ども支援力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業における効果的な指導・支援の在り方—教育的配慮が必要な児童生徒への指導・支援について—
授業力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛好的態度の形成につながる「体づくり運動」の単元開発 ● 「数学的な見方・考え方」を働かせ見直しをもって学ぶ児童の育成—算数・数学科における無解答を減らすために— ● 中学校英語科における「やりとり」の力を高める授業のあり方の研究
特別支援教育力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントの要領開発

修了生インタビュー



滝沢市立一本木中学校 副校長 木村 洋

教職大学院で得た一番の宝は、「人とのつながり」です。現職・学卒院生がいっしょになって議論したり、協力して発表資料を作り上げた経験はとても貴重なものでした。実習・実践を通して理論を検証し、助言をいただきながら学びを深めていく日々は、私にとって一生の財産となりました。また、大学や各教育機関の先生方にも大変お世話になり、教員としてのネットワークも広がりました。現在勤務する滝沢市立一本木中学校は、地域とのつながりが深く、郷土芸能「一本木さんさ」の継承に全校をあげて取り組んでいます。学校と地域の協働により、さらに充実した教育活動を進めることができるよう、大学院での学びを活かしていきたいと思っています。



岩手県教育委員会 教職員課 経営指導主事 高橋 健

教職大学院での実習や授業の中で、現場にいるときは違う角度から学校を見ることができ、様々な教育課題等において学びを広げ、深めることができました。国や県の考え方や動向を知り、根底に流れている背景の理解の大切さを学びました。現在は、岩手県教育委員会で教育行政に関わらせていただいております。2年間の学びを生かし、視線と思考の先に、現場の教職員、その先に生徒がいることを忘れず、岩手の教育を支え、5年、10年先の岩手を作っていくという気概を持ち、業務を推進したいと考えています。



久慈市教育委員会 指導主事 藤森 崇浩

4月から久慈市で教育行政に関わらせていただいております。教職大学院では、学校マネジメント力・授業力・子ども支援力・特別支援教育力に関わる講義や実習から多くのことを学びました。自分の経験と学びをつなげ、子どもたちのために何ができるのか考えた2年間は私の支えとなっています。「小・高・特別支援学校」の仲間と共に学んだことで、子どもたちを見る視野を広げるとともに、校種間の学びのつながりの大切さを再認識しました。現在は多様な業務を担当する中で、大学院で得た知見や学び方が生かされています。今後も先生方と共に、久慈市や岩手の子どもたちのために何ができるか考え、学びの成果を発揮していきたいと考えています。



盛岡市立仙北小学校 教諭 浅沼 美里

教職大学院での学びを通して、授業や学級経営、子ども理解について考える視点、振り返る視点を得ることができたと感じています。また、校種や経験の異なる様々な先生方から学べたことも、現在に大きく活かされています。現在は5年生の学級担任となり、毎日悩みながらも、周りの先生方に支えられながら目の前の子ども達と向き合っています。授業も学級経営も未熟なことばかりですが、子ども達が「なぜだろう。」と本気で考え込む瞬間、「わかった!」と目を輝かせる瞬間にやりがいを感じ、「この子ども達のために頑張ろう。」と思えます。日々の授業や学級経営を振り返り、改善を重ねていくことを大切に、これからも一歩ずつ子どもと一緒に成長していきたいです。

修了生進路

第1期生

【現職院生】

- 金石市立唐丹小学校校長
- 大船渡市立大船渡中学校副校長
- 宮古市立磯鶏小学校主幹教諭
- 北上市立江釣子小学校主幹教諭
- 奥州市立江刺第一中学校教諭
- 岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
- 岩手県教育委員会学校教育課指導主事
- 宮古市教育委員会指導主事

【学卒院生】

- 盛岡市立城南小学校教諭
- 盛岡市立仙北小学校教諭
- 奥州市立胆沢中学校教諭
- 宮古市立崎山中学校教諭
- 岩手県立千厩高等学校教諭
- 岩手県教育委員会教育行政職
- 一関学院高等学校教諭
- 宮城県多賀城市立第二中学校教諭

第2期生

【現職院生】

- 八幡平市立平館小学校副校長
- 盛岡市立城南小学校教諭
- 奥州市立水沢小学校教諭
- 遠野市立遠野西中学校副校長
- 岩手県立盛岡第一高等学校教諭
- 岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
- 住田町教育委員会指導主事
- 大槌町教育委員会指導主事

【学卒院生】

- 盛岡市立桜城小学校教諭
- 盛岡市立厨川小学校教諭
- 一戸町立一戸小学校教諭
- 盛岡市立下小路中学校教諭
- 盛岡市立上田中学校教諭
- 八幡平市立西根中学校教諭
- 滝沢市立滝沢中学校教諭
- 岩手県立盛岡みたけ支援学校教諭
- 仙台市立榴岡小学校教諭
- 北海道立名寄高等学校教諭

第3期生

【現職院生】

- 山田町立山田小学校副校長
- 滝沢市立一本木中学校副校長
- 盛岡市立黒石野中学校主幹教諭
- 盛岡市立厨川小学校教諭
- 岩手県立気仙光陵支援学校副校長
- 岩手県教育委員会教職員課経営指導主事
- 遠野市教育委員会指導主事
- 久慈市教育委員会指導主事

【学卒院生】

- 盛岡市立仙北小学校教諭
- 盛岡市立山岸小学校教諭
- 盛岡市立上田小学校教諭
- 盛岡市立緑が丘小学校教諭
- 盛岡市立津志田小学校教諭
- 矢巾町立矢巾東小学校教諭
- 盛岡市立仙北中学校教諭
- 宮古恵風支援学校教諭
- 岩手県立大船渡高等学校講師
- 秋田県立大曲工業高等学校講師

学修支援Q&A

1 どんな施設で学修するの?

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。この中の院生室では一人一台のパソコンが貸与され、無線LANも完備。演習室には電子黒板等のICT機器も備え、いつでも利活用できます。

2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなこと?

岩手県の教員採用試験に合格し、その上で教職大学院に進学した学卒院生や在学中に合格した学卒院生は、大学院修了(最大2年間)まで名簿登載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許を取得することが条件です。

3 奨学金制度とは、どのようなこと?

学卒院生を対象とした教職大学院奨学金の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

教職大学院を修了後にはこんなメリットもあります。



●岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮され、校内の初任者研修が180時間から90時間に軽減されています。

●岩手県採用の大学院・教職大学院修了者の初任給は、学部卒業者216,532円に対して238,668円となり、教職修士(専門職)への優遇もされています。

●教育実践をリフレクションするサイクルが身につく、修了後も教職大学院や教育関係機関と連携し、教育実践研究を継続、発展させることができます。

>> 教育学研究科(教職大学院) 在籍者数

(令和2年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
平成31年度	学校マネジメント力開発	—	2	2
	授業力開発	8	3	11
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	2	1	3
	小計	10	7	17
令和2年度	学校マネジメント力開発	—	3	3
	授業力開発	7	3	10
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	8	8	16
	合計	18	15	33

>> 教育学研究科(教職大学院) 専任教員

研究者教員

田代 高章
立花 正男
鈴木 久米男
山本 奨
中村 好則
清水 将
佐々木 全

実務家教員

東 信之
多田 英史
佐藤 進
川上 圭一
田村 忠
菅野 亨
菅野 弘

>> 入学者選抜方法の概要

○一般学生対象

筆記試験と口頭試問及び学修・研究の構想レポート、出身大学(学部)の成績証明書を総合して判定します。(志願者数/平成29年度20名 平成30年度15名 平成31年度16名 令和2年度14名)

○現職教員対象

学修・研究の構想レポート、教育活動・実践履歴書及び口頭試問を総合して判定します。なお、現職教員とは、現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、岩手県教育委員会から派遣される予定の者としてします。



教育学研究科棟 (教職大学院)



交通案内 (盛岡駅から)

■ バス利用

盛岡駅前東口バスターミナル11番のりば

岩手県交通バス 駅上田線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大学前」

岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大学前」

■ タクシー利用

盛岡駅から約2km 約10分

■ 徒歩

盛岡駅から約25分



CAMPUS MAP

岩手大学 教職大学院

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu@iwate-u.ac.jp

この冊子は環境に配慮した
用紙を使用しています。

